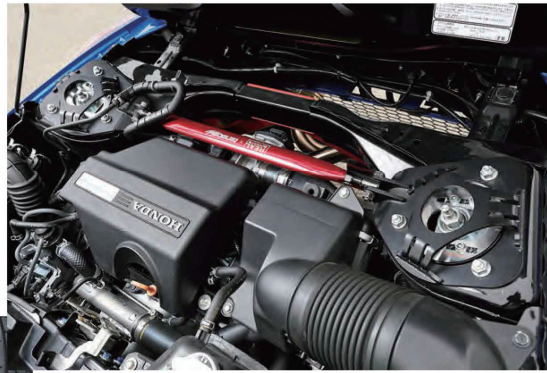


モータースポーツ由来の知識と経験を活かした開発へ タナベの誇る技術と品質が融合する

スーパーGTで戦うNSX-GTをイメージし、船模風のテールエンドとバンパーメッシュを採用したS660用エキゾーストシステム。7psアップを実現するJQR認証のSTスベック、8psアップで2.36kgの超軽量仕上げとした競技専用のRスベックを用意する。



純正からテール位置を変更したことで目立ってしまうリヤメンバーには、レーザー刻印を施したステンレスのメンバープレートを用意。走りの楽しさを引き出すだけでなく、スタイリングにもしっかり配慮してアプローチした。



前後ともシャフト部分はタナベのラインアップするアイテムと同様だが、ベースプレートには剛性向上を図る3D形状を採用したS660用タワーバー。



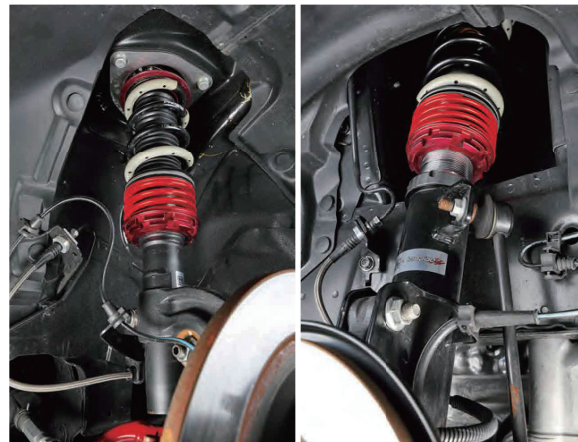
オープンボディのS660でフットワークをしっかりと動かすには、やはりボディ補強が不可欠。ストリートでの快適性を妨げないフロア下で補強効果を最大限に引き出せるボルトや結び方をリアルスポーツが提案し、tanabeがアンダーカバー・装置を最低地上高に配慮した設計で製品を生み出した。



SSRの「GT-X0」もリアルスポーツ×SSRとして、コラボ専用カラーのターゲタムタムとセンターロックデザインのリムセンターキャップでスタンバイ。S660ではフロント6.1×15+45、Rに6.5×16+42のチューナーサイズとしたRスベック。フロント5.1×15+45、Rに6.5×16+48のSTスベックをラインアップする。



オーナーズクラブに参戦している車両からデータを集め、サスペンションシステムのRスベックを開発したN-ONE。ナンバー付も車両でのレースであるため、競技用の性格も踏まえ、ハンドリング向上やキャンバー確保だけでなくサーキット移動時の乗り心地にもこだわった。



純正ダンパーを徹底的に調べ、油量、ストローク量などを考慮して、フロントはネジ式、リヤは全長調整式としたサスペンションシステム。STスベック、Rスベックともにフロントには凸形状でストロークアップしたキャンバー調整式ロッドアッパーを採用する。もちろん、スプリングはタナベの誇るPRO210。ダンパーはKYBの40段減衰力調整式・TVSだ。

リアルスポーツ

開発・メカニック **西崎友章**さん(左)
営業・メカニック **河内憲之**さん(右)

「S660はミッドシップで軽快な走りを楽しむ1台ですが、ハンドリングにさらなるリニアさを引き出すべく、足回りやボディ剛性の最適化を図りました。開発時はストリートチューンとしてのコストにも配慮しつつ、スーパーGTのノウハウを注ぎ、タナベの技術力と品質管理でS660が楽しくなるアイテムへと仕上げられています」(河内さん)



カーバーするSTスベック、サーキットでのタイムを重視したRスベックの2タイプが用意されている。コンパウンドシューリングで速さを引き出すための知識と経験を培ってきたレーシングチームと、高性能に安心・安全を添える物作りエンジニアのドリムコラボ、リアルスポーツ×タナベ。愛車で走りを楽しめるなら、このコラボプロジェクトは決して見逃さない！

リアルスポーツ×タナベで手がけるのはS660、N-ONEだが、リアルスポーツ×タナベがコラボしたN-VANもタナベが機能系パーツをバックアップした。フィットが有力候補という今後の車種展開からも目が離せない。



実力派レーシングチームと
老舗フットワークチューナーが夢の競演!

REAL SPORTS

TANABE



“安心・安全”を
大原則として利便性を注ぎ込む
頼もしいフットワークマイスター

クルマがもっと楽しくなる
注目のコラボプロジェクト
スーパーGTやスーパーカテゴリーミューラといったトップカテゴリーを戦い、広く名を馳せるリアルレーシング。タナベはスプリングやホイールを供給してリアルレーシングとパートナー関係にあるのだが、実はチーム代表を務める金石勝智氏とタナベはチーム設立以前からモータースポーツで深くつきあいを重ねてきた旧知の仲なのだ。
「以前から一緒にできればいいな」と話しかけていて、2018年に立ち上げるようになったのがリアルレーシングの用品部門であるリアルスポーツとタナベのコラボプロジェクトです。お互いが誇るノウハウを重ね合わせて、クルマ好きが愛車をもっと楽しめる製品を作り上げようと始動しました(タナベ企画広報課・土居さん)
その記念すべきファーストモデルは、ミッドシップの本格オープンスポーツとして人気を集めるS660だ。クルマ好きのオーナーが



モータースポーツで長年パートナー関係にあり、互いに信頼を寄せているリアルスポーツとタナベ。双方の得意とする部分を融合し、クルマ好きのオーナーが「リアル」に走りの良さを楽しめる1台を目指している。

「リアル」に走りの良さを楽しめる1台へと邁進。まずは車高調やスタビライザー、タワーバーにマフラーといったアイテムをプロデュース。ボディ剛性を高めてフットワークを高めるべく、開発入札にクルスプレッサーやアブソルマンスパネルなど各部補強を追加している。「普段はレーシングカーを手がけていますし、ベース車両の分析から走りの向上につながるポイントを探るのは得意」とするところ。そうした我々の考えたチューニングポイントも、タナベさんがストリートで安心して使えるように品質や性能だけでなく価格までも配慮してブラッシュアップしてくれました」とは、スーパーGTでレーシングメカニックも務めるリアルスポーツの河内さん。

現在中心とするS660、シビックハッチバック、N-ONEの3モデルで車格に応じたアイテムを展開。また、ユーザーニーズを深く満たすため、S660とN-ONEの車高調は街乗りからワインディングまで